

**令和6年度 春日市 CS20年目「共育の輪、広げよう! 巻き込もう! 続けよう!」**  
**令和5年度「後期」コミュニティ・スクール進捗状況評価結果**  
春日市教育委員会

## 1 評価の目的

- (1) 各学校において現状確認の機会とし、取組のアイデアや改善点を見出すこと。
- (2) 評価について学校運営協議会で議論を行い、方向性の共通理解を図ること。

## 2 評価方法

- (1) 各小中学校の学校運営協議会委員、教職員を対象に4段階で評価。  
(評価対象期間は、令和5年10月～令和6年3月)
- (2) 評価の観点は、次に示すとおり。

I 共育文化醸成の進捗状況
1 コミュニティ・スクールの組織と運営
2 学校の目標・課題の共有
3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築
4 コミュニティ・スクールの認知
II 開かれた教育活動等の進捗状況
1 地域連携カリキュラム(教育課程内の活動)の整備・取組
2 学校・家庭・地域による各種連携活動(教育課程外の活動)の取組
3 地域に開かれた学校情報
III コミュニティ・スクールによる成果
1 学校経営・運営の進捗状況
2 子どもの育ちの状況
3 家庭の教育力の状況

- (3) 学校運営協議会における学校関係者評価に合わせて実施することで、提示された学校の自己評価や保護者、地域、児童生徒アンケート等の客観的なデータに基づいた評価とする。
- (4) 評価の実効性・客観性を高めるため、電子申請による評価を実施する。

## 3 評価結果の算出方法

- (1) 各評価小項目及び評価小項目全体の平均値、さらに、その標準偏差を集計する。
  - ・小学校…平均値3.2 標準偏差0.158
  - ・中学校…平均値3.1 標準偏差0.178
- (2) 各評価小項目を「上位群」「中位群」「下位群」の3グループに分ける。
  - ・(平均+標準偏差)以上のグループを「上位群」の小項目とする。  
(令和5年度後期は、小学校3.4以上、中学校3.3以上、  
令和4年度後期は、小学校3.4以上、中学校3.3以上) : 緑色セルで表示
  - ・(平均-標準偏差)以下のグループを「下位群」の小項目とする。  
(令和5年度後期は、小学校3.0以下、中学校2.9以下、  
令和4年度後期は、小学校3.0以下、中学校2.9以下) : ピンク色セルで表示
  - ・それ以外のグループを「中位群」の小項目とする。

## 4 評価結果と考察

評価結果は次ページに示すとおりである。

令和5年度「後期」コミュニティ・スクール進捗状況評価結果 小学校（前年度との比較）

※ 4段階評価( 4 そう思う 3 概ねそう思う 2 あまりそうは思わない 1 思わない )	R05後期 評価結果	R04後期 評価結果	差
<b>I 共育文化醸成の進捗状況</b>			
<b>1 コミュニティ・スクールの組織と運営</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>0.0</b>
① 学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.3	3.3	0.0
② 実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	3.2	3.2	0.0
③ 子どもたちは学校運営協議会に積極的に参加していますか。	3.0	3.1	▲ 0.1
<b>2 学校の目標・課題の共有</b>	<b>3.3</b>	<b>3.4</b>	<b>▲ 0.1</b>
① 子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	3.4	3.3	0.1
② 教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.3	3.4	▲ 0.1
③ 保護者や自治会と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.1		-
<b>3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築</b>	<b>3.5</b>	<b>3.4</b>	<b>0.0</b>
① 学校は、地域の行事や活動等に協力的ですか。	3.4	3.3	0.1
② 保護者（PTA）は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.3	3.3	0.0
③ 地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.5	3.5	0.0
④ 地域コーディネーターは、学校と地域や保護者とのつなぎ役になっていますか。	3.6	3.6	0.0
<b>4 コミュニティ・スクールの認知</b>	<b>3.1</b>	<b>3.2</b>	<b>▲ 0.1</b>
① CSの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	3.1	3.0	0.1
② CSの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.3	3.4	▲ 0.1
③ CSの目的や仕組み、取組について、保護者・地域住民へ周知されていますか。	3.0		
<b>II 開かれた教育活動等の進捗状況</b>			
<b>1 地域連携カリキュラム（教育課程内の活動）の整備・取組</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>0.0</b>
① 外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を生かす」）	3.3	3.3	0.0
② 自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を学ぶ」）	3.3	3.2	0.1
③ 子どもと保護者・地域住民が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域と学ぶ」）	3.1	3.2	▲ 0.1
④ 地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域に還す」）	3.1	3.2	▲ 0.1
<b>2 学校・家庭・地域による各種連携活動（教育課程外の活動）の取組</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>0.0</b>
① 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.2	3.2	0.0
② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.2	3.2	0.0
<b>3 地域に開かれた学校情報</b>	<b>3.4</b>	<b>3.4</b>	<b>0.0</b>
① 学校は、地域の行事や活動等を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.4	3.4	0.0
② 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.4	3.4	0.0
<b>III コミュニティ・スクールによる成果</b>			
<b>1 学校経営・運営の進捗状況</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>0.0</b>
① 学校の考えや方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.2	3.1	0.1
② 学校を支援・応援する声や行動の増加につながっていますか。	3.1	3.1	0.0
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.2	3.3	▲ 0.1
<b>2 子どもの育ちの状況</b>	<b>3.1</b>	<b>3.1</b>	<b>0.0</b>
① 市民性（地域や地域情報に関する関心）の育成につながっていますか。	3.1	3.1	0.0
② 学力や体力等の生きる力の育成につながっていますか。	3.1		
③ 基本的な生活習慣や学習習慣の形成につながっていますか。	3.1		
<b>3 家庭の教育力の状況</b>	<b>3.0</b>	<b>3.0</b>	<b>0.0</b>
① 基本的な生活習慣や学習習慣への保護者の関心につながっていますか。	3.0		
② 子どもの学びや体験交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	3.0	3.0	0.0
③ 子どもを誘っての保護者自身の地域行事等への参加につながっていますか。	3.0	2.9	0.1
<b>全体結果</b>	<b>3.2</b>	<b>3.2</b>	<b>0.0</b>
<b>標準偏差</b>	<b>0.158</b>	<b>0.163</b>	

令和5年度「後期」コミュニティ・スクール進捗状況評価結果 中学校（前年度との比較）

※ 4段階評価( 4 そう思う 3 概ねそう思う 2 あまりそうは思わない 1 思わない )	R05後期 評価結果	R04後期 評価結果	差
<b>I 共育文化醸成の進捗状況</b>			
<b>1 コミュニティ・スクールの組織と運営</b>	<b>3.2</b>	<b>3.1</b>	<b>0.1</b>
① 学校運営協議会での協議や熟議は充実していますか。	3.3	3.3	0.0
② 実働推進組織や支援組織等による取組は進んでいますか。	3.2	3.1	0.1
③ 子どもたちは学校運営協議会に積極的に参加していますか。	3.1	3.0	0.1
<b>2 学校の目標・課題の共有</b>	<b>3.1</b>	<b>3.2</b>	<b>▲ 0.1</b>
① 子どもたちは、めざす子どもの姿を知っていますか。	3.1	3.1	0.0
② 教職員と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.2	3.2	0.0
③ 保護者や自治会と学校の教育目標や経営の基本方針、課題等を共有できていますか。	3.1		
<b>3 学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築</b>	<b>3.4</b>	<b>3.3</b>	<b>0.0</b>
① 学校は、地域の行事や活動等に協力的ですか。	3.5	3.3	0.2
② 保護者（PTA）は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.2	3.3	▲ 0.1
③ 地域は、学校の教育活動に協力的ですか。	3.4	3.4	0.0
④ 地域コーディネーターは、学校と地域や保護者とのつなぎ役になっていますか。	3.4	3.3	0.1
<b>4 コミュニティ・スクールの認知</b>	<b>3.1</b>	<b>3.2</b>	<b>▲ 0.1</b>
① CSの目的や仕組み、取組について、子どもへ周知されていますか。	3.1	3.1	0.0
② CSの目的や仕組み、取組について、教職員へ周知されていますか。	3.2	3.2	0.0
③ CSの目的や仕組み、取組について、保護者・地域住民へ周知されていますか。	3.0		
<b>II 開かれた教育活動等の進捗状況</b>			
<b>1 地域連携カリキュラム（教育課程内の活動）の整備・取組</b>	<b>3.0</b>	<b>3.1</b>	<b>▲ 0.1</b>
① 外部人材を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を生かす」）	3.1	3.1	0.0
② 自然、文化、伝統、施設等を活かしたカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域を学ぶ」）	2.9	3.0	▲ 0.1
③ 子どもと保護者・地域住民が共に学ぶカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域と学ぶ」）	2.9	3.0	▲ 0.1
④ 地域に参画・貢献するカリキュラムの整備・取組が進められていますか。（「地域に還す」）	3.1	3.1	0.0
<b>2 学校・家庭・地域による各種連携活動（教育課程外の活動）の取組</b>	<b>3.3</b>	<b>3.3</b>	<b>0.0</b>
① 学校と保護者・地域の三者による協働の取組が進められていますか。	3.2	3.1	0.1
② 子どもによる地域行事への参加・参画等の取組が進められていますか。	3.4	3.4	0.0
<b>3 地域に開かれた学校情報</b>	<b>3.4</b>	<b>3.3</b>	<b>0.0</b>
① 学校は、地域の行事や活動を子どもに知らせる環境を整備していますか。	3.4	3.4	0.0
② 学校は、学校関係者評価結果等を保護者や学校運営協議会委員へ発信していますか。	3.3	3.2	0.1
<b>III コミュニティ・スクールによる成果</b>			
<b>1 学校経営・運営の進捗状況</b>	<b>3.1</b>	<b>3.0</b>	<b>0.1</b>
① 学校の考えや方針を家庭・地域に浸透させることにつながっていますか。	3.1	3.0	0.1
② 学校を支援・応援する声や行動の増加につながっていますか。	3.0	3.0	0.0
③ 学校の教育活動の活性化につながっていますか。	3.2	3.1	0.1
<b>2 子どもの育ちの状況</b>	<b>3.1</b>	<b>3.0</b>	<b>0.0</b>
① 市民性（地域や地域情報に関する関心）の育成につながっていますか。	3.2	3.0	0.2
② 学力や体力等の生きる力の育成につながっていますか。	3.0		
③ 基本的生活習慣や学習習慣の形成につながっていますか。	3.0		
<b>3 家庭の教育力の状況</b>	<b>2.9</b>	<b>2.9</b>	<b>0.0</b>
① 基本的生活習慣や学習習慣への保護者の関心につながっていますか。	2.9		
② 子どもの学びや体験交流の場づくりへの保護者の関心につながっていますか。	2.9	3.0	▲ 0.1
③ 子どもを誘っての保護者自身の地域行事等への参加につながっていますか。	2.8	2.8	0.0
<b>全体結果</b>	<b>3.1</b>	<b>3.1</b>	<b>0.0</b>
<b>標準偏差</b>	<b>0.178</b>	<b>0.164</b>	

令和5年度は、コミュニティ・スクール(以下「CS」という。)進捗状況評価の評価小項目を39項目から30項目に変更した。令和5年度の取組の重点は以下の4点である。

- ①熟議の充実と学校経営への反映
- ②市民性を育む地域学校協働活動の充実
- ③「共育の輪」を広げ、巻き込み、CSの目的や仕組み等の認識強化・拡大
- ④成果を意識した取組の充実

## (1) 小学校

### ①全体的傾向

- ・令和5年度後期の平均は3.2であり、令和4年度後期と同じである。
- ・令和5年度後期の標準偏差は0.158であり、令和4年度後期の0.163から若干であるが減少し、各小項目間のバラツキが小さくなっている。

### ②評価項目を比較して

- ・評価小項目を30項目に減らし、令和4年度後期と比較できる項目は25項目である。その25項目を比較すると、6項目で増加し、減少した項目も6項目であった。
- ・令和5年度後期と令和4年度後期の上位群と下位群の数を比較すると、上位群の数は、6項目ずつと変化はないが、下位群の数が令和5年度後期は5項目と2項目増加している。I-1-③「子どもたちの学校運営協議会への参加」とI-4-③「CSの目的や仕組み等の保護者・地域住民への周知」が下位群になった。
- ・紺色の評価中項目を比べると、I-3「学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築」の数値が3.5であり、令和4年度前期に引き続き高い。また、II-3「地域に開かれた学校情報」の数値も3.4と高い。
- ・評価小項目I-3-④「地域コーディネーターのつなぎ役」の項目の数値は3.6ポイントであり、令和4年度後期に引き続き、30の評価小項目の中で最も高い数値である。
- ・大項目Ⅲ「CSによる成果」については、中項目Ⅲ-3「家庭の教育力の状況」の3つの評価小項目ともに下位群であり、保護者等へのCSの認知と併せて家庭の教育力の向上は課題である。

## (2) 中学校

### ①全体的傾向

- ・令和5年度後期の平均は3.1であり、令和4年度後期と同じである。
- ・令和5年度後期の標準偏差は0.178であり、令和4年度後期の0.164より増加し、各小項目間のバラツキが大きくなっている。

### ②評価項目を比較して

- ・小学校と同様に、評価小項目を30項目に減らし、令和4年度後期と比較できる項目は25項目である。その25項目を比較すると、9項目で増加し、減少した項目は4項目であった。
- ・令和5年度後期と令和4年度後期の上位群と下位群の数を比較すると、上位群の数は7項目で同数である。下位群の数は、1項目から5項目に増加している。中項目II-1「地域連携カリキュラムの整備・取組」の2項目、中項目Ⅲ-3「家庭の教育力の状況」の3項目である。家庭の教育力向上に関しては、小学校同様に課題である。
- ・紺色の評価中項目を比べると、I-3「学校と保護者・地域住民との双方向の関係構築」とII-3「地域に開かれた学校情報」の数値が3.4と高い。評価小項目I-3-①「学校は地域の行事や活動等に協力的ですか」の数値が、3.5と最も高い。

### (3) 令和6年度の取組の重点

令和6年度は、春日市のCS20年目を迎え、今年のCS推進のスローガンを「共育の輪、広げよう!巻き込もう!続けよう!」とする。これまで培い積み上げてきた取組を基盤に、春日市のCSの連続発展性、持続可能性の観点から、次の3点を令和6年度の取組の重点として進めていく。

#### ① 熟議の充実と学校経営への反映

令和5年度当初に、学校運営協議会での熟議の実施回数及び熟議題に関する調査を行った。市内18校の学校運営協議会の平均実施回数は5.3回で、熟議の平均実施回数は2.2回であった。また、各学校で実施した熟議内容をどのように学校経営・運営に反映しているかのレポートを作成させ、校長会でグループ協議を行った。熟議内容と学校経営をPDCAサイクルとして一体的に推進するという意識は高まってきていると考える。

令和6年度は、各学校のCSを牽引するメンバーが揃うCSトップセミナーにおいて熟議題を決定し、熟議の進め方や事前準備等を検討するグループ協議を位置付け、教育課題等の解決につながる熟議が行えるようにする。また、熟議内容の学校経営への反映についても、昨年度同様校長会でグループ協議を行い、併せて、学校経営への反映内容は再度学校運営協議会でも報告するように進める。

#### ② 「共育の輪、広げよう!巻き込もう!続けよう!」の推進

令和5年度に、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し様々な制限も緩和され、地域学校協働活動への参加延べ人数は78,926人(令和4年度72,973人)であった。令和6年度も、各学校の昨年度の参加人数をもとに目標値を設定する。特に、家庭の教育力の状況が小中学校ともに下位群にあることから、保護者をいかに巻き込むかという視点で目標値を設定してもらおう。保護者、地域住民を巻き込むことでCSに関する認知度も向上するものと考え。また、認知度の向上が春日市CSの持続可能性につながるものと考え。

#### ③ 成果を意識した取組の充実

令和5年度後期CS進捗状況評価においては、評価中項目Ⅲ-3「家庭の教育力の状況」に関して、小中学校ともに全てが下位群である。また、評価小項目Ⅰ-4-③「CSの目的や仕組み等についての保護者・地域住民への周知」が小学校では下位群に位置づいている。令和6年度も、保護者及び児童生徒への説明回数や説明方法等の調査を行う。また、CSの成果を見える化した記録集を広く周知することで、保護者をはじめとする市民のCSの理解及び関心を高めていきたい。併せて、年間2回実施している学校関係者評価の内容も学校ホームページと春日市ホームページに掲載しCSに関する理解を図りたい。

令和6年度は、春日市のCS20年目を迎える。CSの取組が子どもの育ちに与える影響等を調査し、今後の進むべき方向性を定めるため、令和6年度前期CS進捗状況評価に代えて、アンケートを実施する。アンケートの対象は、小中学生、保護者、教職員、自治会役員、学校運営協議会委員、近隣高校生徒とし、20年目の節目としてコミュニティ・スクールの成果を検証する。

令和5年度「後期」 平均値と標準偏差

